
[成果情報名] 8月定植の促成ナスの垣根仕立て栽培における品質向上のための摘葉および側枝除去技術

[要約] 促成ナスの早植え栽培において、主枝葉を11月または12月より順次摘葉すると品質、収量が向上する。また、主枝葉を順次摘葉し、3段または5段以下に着生する側枝を年内に除去すると側枝除去しない場合と同程度の収量が得られ、12月以降の品質が向上する。

[担当部署] 野菜栽培部・野菜栽培チーム

[キーワード] 促成ナス、8月定植、垣根仕立て、摘葉、側枝除去

[連絡先] 092-922-4364

[対象作目] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

近年、促成ナスでは単価が高い年内の増収を目的とした8月や9月上旬に定植する作型が増加している。この早植え栽培は年内収量が増加する反面、厳寒期の品質および収量の低下が問題になっている。厳寒期の品質および収量の低下は日照の減少に影響を受けており、受光体勢改善のための摘葉や側枝除去等の整枝技術の確立が求められている。

そこで、8月定植の促成ナスの垣根仕立て栽培において、厳寒期の品質および収量を確保するための摘葉や側枝除去方法を確立する。[要望機関名：生産流通課(H14)、北筑前普(H15)]

[成果の内容・特徴]

- 1．主枝葉の摘葉方法は、主枝葉の11月または12月に順次摘葉すると、12月に一斉摘葉または黄化葉のみ摘葉に比べて12月以降の収量が高くなり、総収量は高く、3～4月の上物品率が優れる。(表1、一部データ略)
- 2．側枝の除去方法は、3または5段以下に着生した側枝を年内に除去すると側枝を除去しない場合に比べて総収量はやや低くなるが、曲がり果・首細果等の不良果発生割合が減少するために上物品率が優れる。(表2、一部データ略)
- 3．11～12月に順次摘葉し、3または5段以下に着生する側枝を年内に除去すると、総収量は側枝を除去しない場合と同等であり、曲がり果・細果等の不良果発生割合が低くなるため12月以降の上物品率が高くなる。また、側枝除去区が無処理区より12～3月の果実のボリュームも優れる。(表3、図1、図2、一部データ略)

[成果の活用面・留意点]

- 1．一斉に摘葉すると収量や品質が低下するので、摘葉する際は2～3枚ずつ数回に分けて行う。
- 2．3段以下の側枝除去後は側枝を1芽1果どりで管理する。
- 3．台木はトレロ、養液土耕栽培の試験データである。

[具体的データ]

表1 摘葉方法と収量および品質(平成14年)

試験区	収量(kg/m ²)		上物品率(%)	不良果発生割合(%)			
	1~3月	Total		曲がり	ぶく	首細	細果
11月 順次摘葉始	5.28	22.14	51.0	27.7	10.7	8.9	5.4
12月 順次摘葉始	5.72	22.87	51.4	26.6	9.3	7.4	5.4
12月 一斉摘葉	4.59	21.50	44.7	28.8	13.6	11.0	6.3
黄化葉のみ摘葉	4.85	21.36	48.0	28.1	8.8	9.7	6.7

注) 1.定植は2002年8月20日で、収穫は2002年9月10日~2003年6月27日。(表2も同じ)
2.順次摘葉は主枝葉を月の上旬~下旬に数回に分けて全て摘除(表3も同じ)

表2 整枝方法と収量および品質(平成14年)

試験区	収量(kg/m ²)			上物品率(%)	不良果発生割合(%)		
	年内	1~6月	Total		曲がり	首細	その他
3段以下除去	5.50	15.93	21.43	55.1	24.8	6.5	5.7
無処理	5.96	16.28	22.24	46.2	29.9	9.8	8.2

注) 側枝除去は着生した側枝を基部より除去。(表3も同じ)

表3 摘葉時期及び側枝除去方法と収量および品質(平成15年)

試験区		収量(kg/m ²)		上物品率(%)	不良果発生割合(%)		
摘葉開始	側枝除去	1~3月	Total		曲がり	ぶく	細果
11月	5段以下	4.85	20.61	46.1	28.0	12.8	8.3
	3段以下	5.35	20.99	47.8	28.1	11.8	9.4
	無処理	5.19	20.83	41.4	30.5	14.5	10.1
12月	5段以下	4.80	20.11	45.2	28.8	13.0	9.4
	3段以下	4.73	20.04	46.6	27.8	12.6	8.2
	無処理	4.95	20.44	40.8	29.8	17.1	10.3

注) 定植は2003年8月20日で、収穫は2003年9月10日から2004年6月30日。

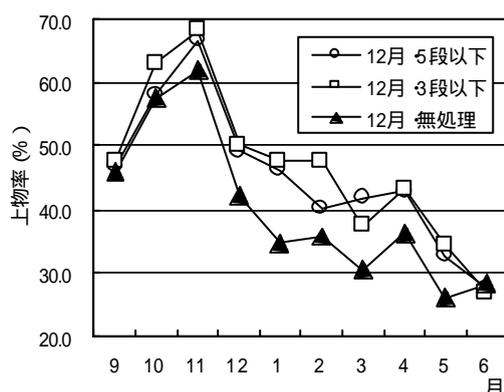


図1 側枝除去方法と上物率(12月摘葉開始)

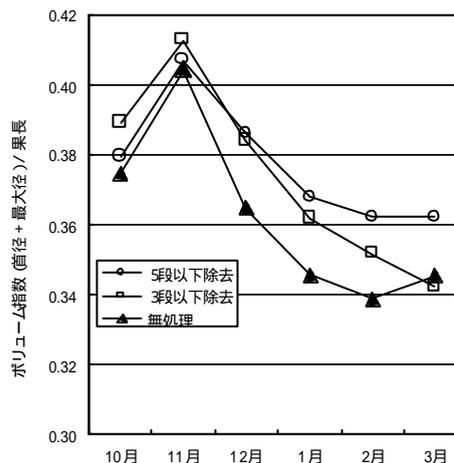


図2 側枝除去程度と果実ボリューム(12月摘葉)

[その他]

研究課題名: 促成ナスの作期拡大と高品質安定生産技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成15年度(平成14~16年)

研究担当者: 石坂晃・井上恵子・古賀武・森山友幸・井手治・奥幸一郎